

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-214997

(P2000-214997A)

(43) 公開日 平成12年8月4日(2000.8.4)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 6 F 3/033

識別記号

3 4 0

F I

G 0 6 F 3/033

テマコード(参考)

3 4 0 C 5 B 0 8 7

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平11-124614
(22) 出願日 平成11年3月29日(1999.3.29)
(31) 優先権主張番号 特願平10-368432
(32) 優先日 平成10年11月19日(1998.11.19)
(33) 優先権主張国 日本 (J P)

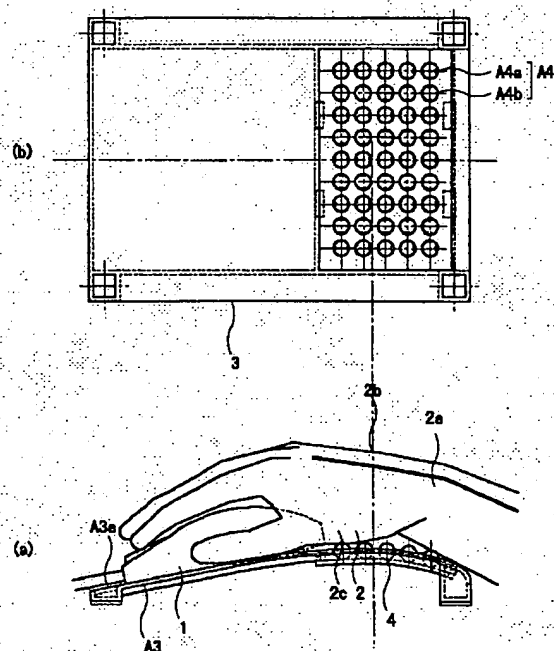
(71) 出願人 596085922
服部 元信
千葉県若葉区みつわ台三丁目26番地19
(72) 発明者 服部 元信
千葉県若葉区みつわ台三丁目26番19号
Fターム(参考) 5B087 AA09 AB02 BB18 BB20

(54) 【発明の名称】 マウスパット

(57) 【要約】

【課題】本発明が解決しようとする課題は、長時間、パソコン用マウスを操作しても手や手首に疲労を与えないようなマウスパットを提供することにある。

【解決手段】本発明は、パソコン用マウスを置いて動かすマウスパットにおいて、マウスの位置が、操作者の手首側より、先端側が低くなるようにマウスパット面が傾斜し、さらには操作者の手首が置かれる前記マウスパットの部分に低摩擦手段を設けているため、このマウスパット面にマウスを斜めに置いて操作することによって、操作者の手首が手のひら側に自然に曲がり、力を抜いた状態で、また手首が支点にならないように(固定されないように)手首を自由自在に動かし易い状態で、マウスの操作を続けることができるものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】マウスを動かす操作者の手首が、力の入らない程度に手のひら側に自然に曲がる状態で前記マウスを動かせるように、前記マウスを上置くマウスパット面が高く位置するような高さ寸法を持つことを特徴とするマウスパット。

【請求項2】前記マウスの位置が、操作者の手首側より、先端側が低くなるように前記マウスパット面が傾斜していることを特徴とする請求項1に記載したマウスパット。

【請求項3】操作者の手首が置かれる前記マウスパットの箇所に低摩擦手段を設けることを特徴とする請求項1乃至2に記載のマウスパット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、パソコン用マウスを上置いて動かすマウスパットに関する。

【0002】

【従来の技術】図1に従来技術を示す。パソコン用マウス1を動かす時、操作者の手首2aが手の甲2b側にやや曲がった状態が続き、手首2a近くの筋肉の伸縮が一方方向に継続したり、この状態で手首を支点にして頻繁にマウスを動かして局所的な筋肉を使うため、長時間の操作では、手や手首2aが疲労を受けるものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明が解決しようとする課題は、長時間、パソコン用マウスを操作しても手や手首に疲労を与えないようなマウスパットを提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】請求項1のマウスパットは、マウスを動かす操作者の手首が、力の入らない程度に手のひら側に自然に曲がる状態で前記マウスを動かせるように、マウスパット面を高く位置するような高さ寸法を持つことを特徴としており、手首近くの筋肉が伸びっぱなし、縮みっぱなしといった一方方向の伸縮が継続することなく、力を抜いた状態で、マウスの操作を続けることができるので、手や手首に疲労を与えないという作用効果がある。このマウスパットは、材質を限定するものではないが、加工性の良いプラスチック成形品が適している。

【0005】請求項2のマウスパットは、請求項1の特徴に加えて、マウスの位置が、操作者の手首側より、先端側が低くなるようにマウスパット面が傾斜していることを特徴としており、このマウスパット面にマウスを斜めに置いて操作することによって、操作者の手首が手のひら側に自然に曲がる状態をさらに維持し易くし、より力を抜いた状態で、マウスの操作を続けることができるので、手や手首に疲労を与えないという作用効果がある。材質については、請求項1と同様である。

【0006】請求項3のマウスパットは、請求項1乃至2の特徴に加えて、操作者の手首が置かれる前記マウスパットの部分に低摩擦手段を設けることを特徴としており、マウスの操作において、できるだけ手首が支点にならないように（固定されないように）手首を自由自在に動かし易くして、長時間の操作でも手や手首2aに局所的な筋肉疲労を与えないようにする作用効果がある。

【0007】低摩擦手段は、複数の球（ボール）状あるいはころ（ローラー）状の、各々の中心軸の周りを回転する回転体を縦横に並べて構成することができる。前後方向の回転体と左右方向の回転体を適度に配列しておけば、手首は前後左右、自由自在な方向に動かし易くなる。材質については、請求項1乃至2と同様である。

【0008】

【発明の実施の形態】図を参照しながら、本発明の実施の形態（以下、「実施例」という）について説明する。図2は本発明の実施例1としてのマウスパットと操作者の手の状態を示している。

【0009】実施例1を図2で説明する。実施例1のマウスパットは、適度な高さ寸法を持つと共に、マウス1の位置が操作者の手首側よりマウス1の先端側が低くなるように、マウスパットA3の面A3aが傾斜している。このマウスパット面A3aにマウス1を斜めにおいて操作することによって、操作者の手首2aは手のひら2c側に自然に曲がる状態が維持され、力を抜いた状態で、マウス1の操作を続けることができる。手首2aが置かれている部分には、前後方向に回転する球状の回転体A4aと左右方向に回転する球状の回転体4bが、交互に並べられており、手首2aは前後左右、自由自在な方向に動かし易くなっている。

【0010】実施例1は、プラスチック成形品である。材質は、従来のマウスパットでも使われているアクリル系の樹脂などでもよい。また、マウスの誤動作防止のために導電性樹脂にすることも容易である。マウスパット面A3aに従来のようなマウスパットを貼付けることも可能である。

【0011】

【発明の効果】本発明に係るマウスパットを使用すれば、マウスを動かす操作者の手首が手のひら側に自然に曲がり、手首近くの筋肉の伸縮が少なく、力を抜いた状態で操作を続けることができ、また手首が支点にならないように（固定されないように）手首を自由自在に動かし易い状態で操作を続けることができるので、長時間のマウス操作においても、従来のような手や手首に筋肉疲労が無い。

【図面の簡単な説明】

【図1】従来のマウスパットとマウスの操作者の手の状態を示す。

【図2】本発明の実施例1としてのマウスパットと操作者の手の状態を示す。（a）は正面図を、（b）は平面

図を示す。

【符号の説明】

1 マウス

2 手

2a 手首

2b 手の甲

2c 手のひら

3 マウスパット

3a マウスパット面

A3 実施例のマウスパット

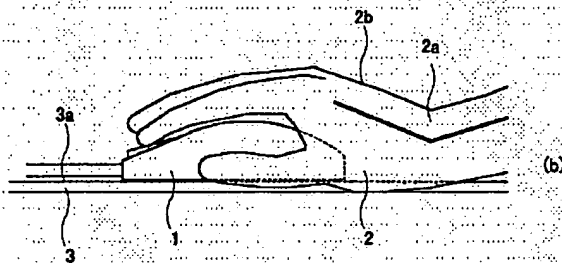
A3a 実施例のマウスパット面

A4 実施例の回転体

A4a 実施例の前後方向の回転体

A4b 実施例の左右方向の回転体

【図1】



【図2】

